

多神教の神 —七福神について—

兼任恵彬

◎七福神の由来は中国の晋末期の「竹林の七賢」の故事にあやかっており、室町時代以降福を願って盛んに信仰されるようになった。

神名	出身地	本来の名前	系譜・神徳など
恵比寿 (夷、戎、蛭子)	日本	ヒルコ命	<ul style="list-style-type: none">イザナギ命とイザナミ命との間に最初の子として生まれたが、体が不自由だったことから葦舟に乗せて海に流し捨てられたが、摂津国西の浦(兵庫県西宮)の海岸に漂着。土地の人々に育てられ、夷三郎、そののち夷三郎大明神、戎大神として祀られるようになった。西宮神社のエビス神信仰が全国に広まったのは、同社に所属する百太夫という者を始祖とする傀儡子の集団が各地を巡り歩き、「恵比寿回し」、「恵比寿担ぎ」と呼ばれる演芸による。一般的にエビス神は蛭子命だが、コシロヌシ命(オオクニヌシ命の長子)あるいはヒコホホデミ命(山幸彦)とする説もある。大漁の神、航海安全の神、商売繁盛の神、かまどの神、田の神、市場の神。
大黒天	インド	マハーカーラ	<ul style="list-style-type: none">ヒンドゥー教の神シバアの別名マハーカーラの意識。マハーは「大」、カーラは「黒」或いは「死」を意味し、破壊する力とともにすべてを救う力も持つ闇黒の死神とされた。やがて財福の神としての性格を持つようになり、中国に伝えられると厨房に祀られ、食料を司る神にもなった。仏教では大日如来の化身とされ、仏法の守護神であった。戦闘の神、憤怒の神とされ、凄まじい形相をしている。日本へは最澄が比叡山延暦寺の厨房の神として迎え、寺院の守護神・食物の守り神として祀った(三面六臂大黒天像)。平安末期には武神の面影は消え、室町になると「大黒」と「大国」の音が同じであることからオオクニヌシ命と習合し、福神としての性格をさらに強めた。穀物の神、田の神、商売繁盛の神、かまどの神。
弁財天 (弁天、弁才天)	インド	サラスバティ	<ul style="list-style-type: none">ヒンドゥー教の神ブラフマーの神妃で、水の神、豊穡の神として信仰されたが、弁舌の女神ヴァーチェと融合して学問・音楽・芸術の女神の性格も合わせ持ち、妙音天、美音天とも呼ばれる。仏教の守護神となってからも芸道・音楽の神としての性格は引き継がれた。日本に來ると宗像大社の祭神、イチキシマヒメ命と一体化している。またわが国では弁才天よりも弁財天として、財宝を施す商売繁盛の神としての面が強くなった。平清盛は青年時代の不遇を弁才天に祈ったことで救われ、厳島神社を建造した。芸能の神、蓄財の神、漁業の神、水の神、農作の守り神。日本三弁天は厳島神社(広島)、竹生島宝厳寺(滋賀)、江ノ島神社(神奈川)。日本五大弁財天は日本三弁天+天河弁財天社(奈良)、黄金山神社(宮城)。

神名	出身地	本来の名前	系譜・神徳など
毘沙門天	インド	バイシュラバナ	<ul style="list-style-type: none">ヒンドゥー教の神ヴィシュヌ神の化身とされ、北方を守護し、財宝神徳を司る善神とされた。中央アジアを経て中国に伝えられると憤怒相の形像へ変化した。仏教と融合して武神に変化した。仏教四天王の一尊で多聞天とも呼ばれ、北方を守る役割を持つ。日本に伝わると、御所を守る守護神として京の真北の鞍馬寺に祀られた。 * 四天王: 多聞天、持国天(東方守護)、広目天(西方守護)、増長天(南方守護)楠木正成は両親がこの神に祈って生まれた子で幼名は多聞丸。信貴山のこの神を信仰。足利尊氏は「勝ち運」の神として崇拜。上杉謙信はこの神を守護神として信奉し、旗印を「毘」とした。「毘沙門天の申し子」といわれた。武神、戦勝の神、財福神。三大霊場は最勝寺(栃木)、鞍馬寺(京都)、朝護孫子寺(奈良)。
福祿寿	中国		<ul style="list-style-type: none">道教の神で、福(幸福)、祿(富)、寿(長寿)の三つの福徳を授ける神。招福の神、長寿の神、蓄財の神。
布袋	中国	契此(けいし)	<ul style="list-style-type: none">9~10世紀の中国に実在したといわれる禅僧で弥勒菩薩の化身といわれる。招福の神。
寿老人	中国		<ul style="list-style-type: none">道教の神で、福祿寿と同一視されて七福神から外され、一時期吉祥天が入った時代もあった。長寿の神。

《参考》
金刀比羅宮 祭神: 金比羅神

- 金比羅神はもともとインドのクンピーラ神。
- クンピーラ神は、ガンジス川に棲む鰐が神格化されたもの。
- 日本に入ってくるると海神や龍神に比定され、海難や雨乞いの守護神、金比羅神として祀られる。